

校庭で遊ぼう 校 舎三階へ・・・・・・・・ 大乱交女教師指南 セックスタイム

・・・・・・・・その建物は薄くぼやけた田舎の片隅に建っている。

・・・・ゆったりとした音楽がBGMとして響いている。

山が隣接し、国道などは今は車の通りも少ない・・・・・・・・。

音楽はかすかに微量の音で建物横の外の道路まで響いている。

その建物は・・・・・・・・・・言わば

学校である。

・・・・・・・・簡易メロディのチャイム
も鳴り響く。

チャイムの音は比較的大きい。

そしてそのチャイムの意味は

・ ・ ・ ・ ・ 休止タイムである。

何の休止か・・・・・・・・？

その答えは屋内にあった。

下駄箱は比較的新しいが、利用者生徒たちのどろんこ遊びによってところどころ泥で汚れている。

一階の廊下。

何故か新しい作り。

先日改装されたばかりである。

透明の自動ドアがゆっくり開く
と・・・・・・・・

廊下を渡り階段を上る。

自動ドアのすぐ近くにエレベーターも
あるが、生徒たちは駆け足で階段を上る。

そこには木の床。

皆は、3階がその・・・・場所である。

裸の男女がその奥へ進むと

石の床に変わる。少しだけ高低差があり

2 c mほどの薄い水が敷き詰められる
ようにためられている・・・。

温泉の一区間のよう。

横には人魚のような淫乱な石像。

胸は比較的大きく、

羽が微妙に生えている。

その水は生温かく

寝そべって眠るのにも最適であるが

上のランプ。高級な香り。

その下で行われていることは

それは

大変なことなのである。

．．．．．ちなみに、その幻想的な水の
石床の横には普通の木床のルームもある。

皆は、木床の方へ向かう。

石床でゆったり裸を温めたあと……。

その行為は長時間続くため

高い鉄の棒の上部に備えられている

スピーカーから

チャイムが鳴るのである。

ちなみに校庭にも同様のスピーカーはある。

まるで授業の終わり。

そして休憩タイムに入る。

広いその建物の前には

小さな山、木々、草むらが取り囲んだグラウンドがある。

休憩タイムの女子たちはグラウンドへ

と出た・・・。

キンコーンカーンコーンッ
ッ・・・・・・・・

薄い赤のスカートを穿いてグラウンド
ド・・・・・・・・いや小さなお庭公園と言
っていいかもしれない

走って出てはしゃぐ女子たち。

それは朝である。

昼夜問わず。

・・・・・・・・・・それまでしていた
ことは・・・・・・・・。

施設内の木床の上で

・・・・・・・・衣服を脱いで・・・・・・・・

「もっと吸ってっっ！！吸ってよっ
っ！！！！」

夢中で大きなおっぱいを放り出して

ブリンッ！！！！ブリンブリンッ
ッ！！！！

男子たちに巨根をせがむ女子。

みんな一緒になって、施設内の平たい床

の上で

. 汗だくで汚れないよう

しっかりと白いシーツを敷いて

遊ぶ

前の広場校庭ではしゃぐ女子たちは体育座り。

男子たちを待っているようだ。

廊下から男子が小走りで来る。

その半ズボンはもっこりしている。

先ほど床の上で汗だくになっていたばかりだからだ。

まだその勃起が収まりきっていない。

セックス・・・・・・・・

若者男女たちそれを知ったのはこの建物が初めてだった。

膣にぶっといペニスを挿入され限界値
まで股を広げながら・・・・・・・・

女子たちは理想的夢の中、

思い起こしていた・・・・・・・・。

過去を・・・・・・・・。

街中でチラシリーフレットを配られていた。

背の低いお兄さん。

しかし彼がこの楽園の紹介ではなかつ

た。

そこから少し離れた

階段の下の小さなドア。

その前に、変な壁紙が貼られていたのだ。

「疼く股間の女子男子たち・・・・ここに
入ってみなさい」

すこし周りを見渡し不思議がるも、

スマホを取り出すと友人からの連絡もない。

暇なので入ってみることにした。

・・・・・・・・・・地図を手渡される・・・。

平穩な田舎の公園と校舎。

周りには特段何もなく、広々と田畑が広がっている・・・。

男女たちは地図を頼りになんとなく

ここへたどり着いたのである。

牧歌的でやけに・・・不気味なほどにの
どかな田舎・・・・・・・・

夏になれば線香花火でも出来そうなく
らいの・・・。

そのような学校の中で

全ては始まった。

足が一本のかかしのよう な四角い看板
が動き出し

「女子たちよ、パンツをずらしてみなさ
い」

そう言ったのだ。

校門のすぐ入ったところにそのかかしはいた。

曇り空。ゆったりとした気候・・・・・・・・

女子たちは顔を見合わせ、

ゆっくりと納得しきるようにそのかかしに頷いた。

「確かに・・・・・・・・裸っていいよね」

夕方になり、グラウンド、校庭は平穏である。

薄明かりの窓の向こう。

明かりはそれほど強くもないが、暗闇の夜の中ではより明るく見える。

もっとも田畑山が広がるこの地ではほぼ周囲に明るい施設などもない。

少しさびれた教室の中では

男子と女子たちが全員、集まって脇を上げて衣服を脱いでいた。

お尻がプリンプリンの女子たち。

かかしの指示通り

気がつけば皆、汗だく

白くぼんやり光る昼間の幻を、セックス
をしながら男女たちは思い起こしてい
た。

校庭ではしゃぎまわる。

夢中で自由気ままにはしゃいでいた。

何故かチャイムの音がイメージとして残っている。

長く感じられた・・・・・・・・

夢中で遊んでいて、チャイムは鳴って止まった。

もちろん休止タイムの時以外にもチャイムは鳴るのである。

校舎へ出た男女たちは夢中でスカートで遊んでいた。校舎にある鉄棒や雲梯

(うんてい)、上り棒などではしゃぎ回り楽しむ。

女子たちのスカートは揺れ、白い下着が顔を出している。

ぷりんっ！！！！ぷりんぷりんっ！！小さな・・・・・・・・女の子によってはそこそこ大きなお尻が揺れる・・・・・・・・。

男子たちは各々、それに素知らぬ顔で各自で楽しんでいる。

「次は鉄棒をやろうぜっ！！！」

元気いっぱい。

砂場で遊ぶ男子メンバーもいる。

ズボンが昨晚の大酒池肉林により

半ば辺りが大きな膨らみを帯びている。

中にはもっこりグレーのパンツがしま
われているのだ。

あるいは別の男子メンバーは大きなタイヤや上り棒で遊んでいる。

夕焼けが雲がかかる頃

チャイムの音が次第にゆっくりになる・・・・・・・・。

（体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました）